

霜月：第20話「地域から学ぶ」

今日の社会では、地域コミュニティの変化にともない、子どもたちの人間関係を育み広げる機会が減少して、地域の中で社会性を高めていくことが難しくなっていると言われています。しかし、本校では、入学式にはじまり、運動会や学習発表会、生活科及び総合的な学習の時間といった教科の学習においても、地域の方々に大変お世話になっております。また、地域の特色を生かした豊かな体験活動を企画する際にも様々な形で協力していただいているところです。

先日、11月24日に開催された地域公開参観日では、次のような地域とのつながりを意識した学習を行いました。

2年：「わくわくどきどき さか町たんけん」 3年：「坂町のひみつや良さを伝えよう」
4年：「受け継ごう！伝えよう！ 横浜の宝 曳舟」
5年：「わたしたちの町 坂町 ～米・ムラサキ麦～」
6年：「（ゲストティーチャーの話をもとに）日本の心を学ぼう」



これらの授業を見て感じたことは、他者と関わり合いながら、地域の「人、モノ、こと」について学べば学ぶほど、**新たな課題が生まれてくる**ということです。左の写真は、4年生が、保護者の方に自分が調べたことを聞いてもらい、感想や疑問点を書いてもらっているところです。ちなみに、この学習の前に、児童は子ども同士でも、調べたことを聞いてもらい、改善点をフセンに書いてもらう活動を行っていました。「法被（はっぴ）の背中模様について調べたい」「もみとかけ声の意味を調べたい」「一人がかつぐ重さを調べたい」等、保護者や地域の方々から頂いた質問や感想をもとに、さ

らに曳舟について「深堀り」したいという気持ちになったようです。

また、子どもたちは、地域の特色を生かした体験活動により、どのように地域とかかわり、貢献していけばよいのかを考えられるようになるということです。

10月13日に5・6年生の児童が曳舟祭りに参加しました。子どもたちの感想には、「八まん神社から帰る時に、坂があるところをおじさんたちが一生けん命引っ張っていたのがすごいと思いました。」「ひき船は重かったし、肩がちぎれそうだったけど楽しかったです。みんなと協力する力がちょっとはついたなと思いました。ひき船の行事は成功したなと思いました。」「お母さんが、『がんばってるね』と言ってくれたのでうれしかったです。また、6年になってもひき船に出て活やくしたいなと思いました。」など、地域の行事に参加して、自己有用感を味わってくれたように思います。



ある講演会で、「将来、子どもたちが、地域のために役立とうという気持ちになるためには、学校で地域のことを学び、愛着をもたせることが大切である」という話を聞きました。坂町には、子どもたちが意欲的に学べる“資源”が豊富にあると思います。これらの人的・物的“資源”を活用して、豊かな体験活動を取り入れながら、地域のために何ができるのかを考えられる子どもたちを育てていきたいと